

地区防災計画（避難支援個別計画） 作成モデル事業

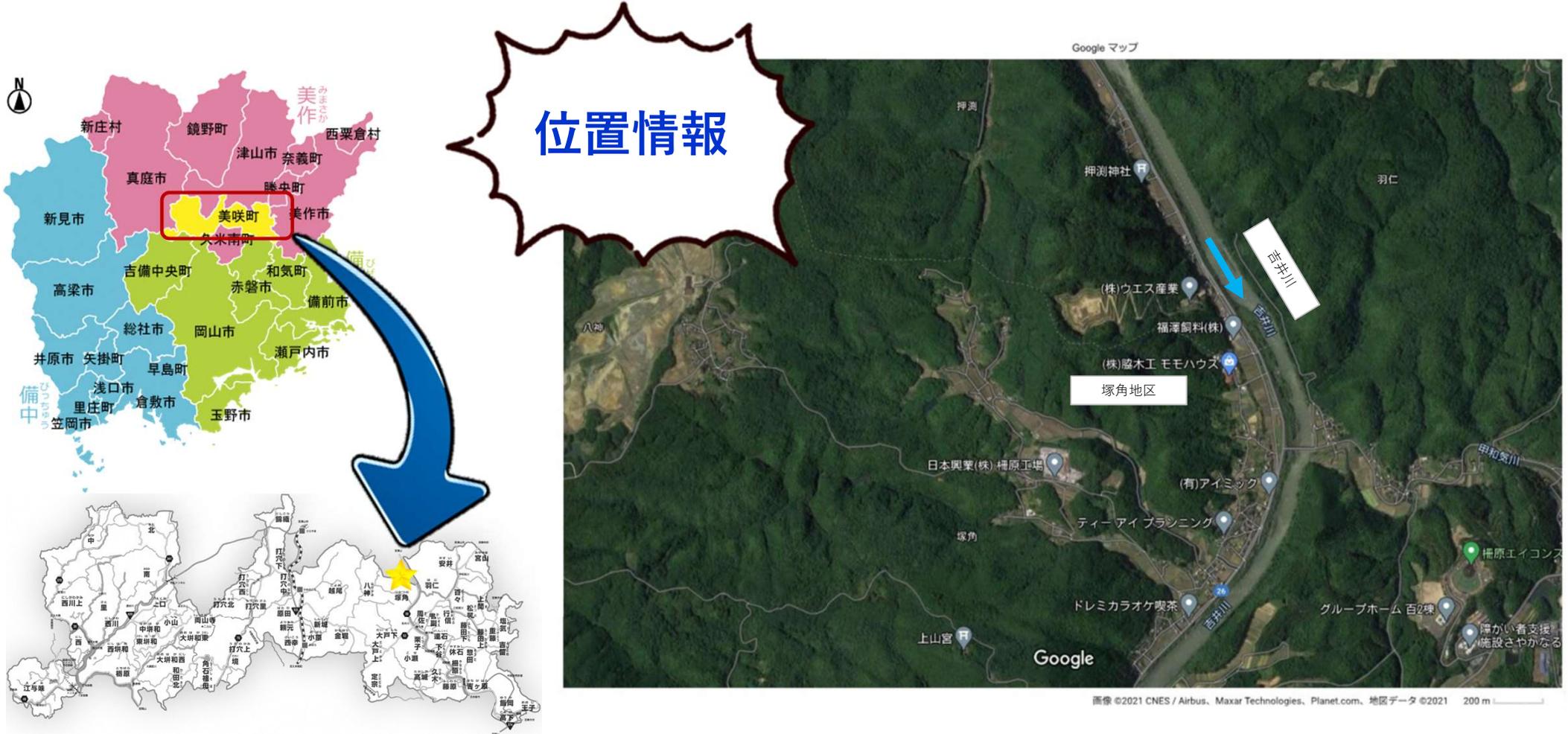
令和3年3月26日（金）



美咲町 塚角自治会自主防災組織

塚角地区（岡山県美咲町）

塚角→（つかつの）



塚角地区（岡山県美咲町）

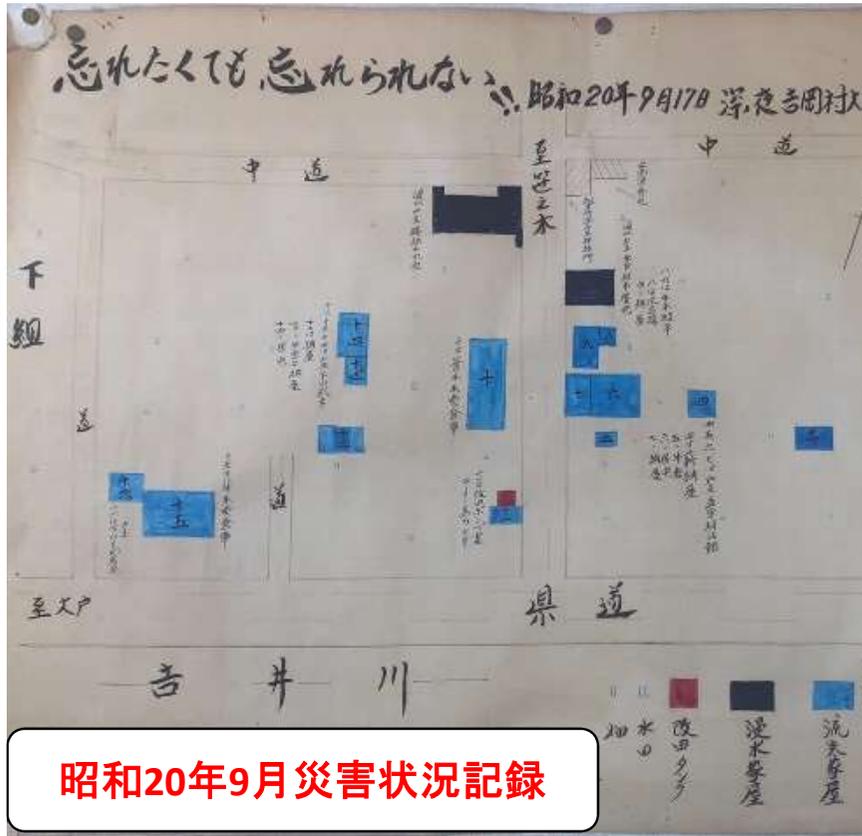
2. 過去の災害履歴

吉井川流域の洪水は、ここ400年間の記録に残っている主なものでも約70回発生しています。昭和に入ってから頻りに洪水が起こり特に昭和9年9月（室戸台風）昭和20年9月（枕崎台風）昭和51年9月、平成2年9月、平成10年10月など浸水により人家などに多大な被害をもたらしました。当地区（旧柵原町）においても下記の大きな災害が記録に残っています。

- 昭和20年9月（枕崎台風）当地区流出家屋16戸、水災者22人、家畜牛2頭
- 昭和38年7月 梅雨前線
- 昭和47年 梅雨前線
- 昭和54年（台風20号）
- 平成10年10月（台風10号）家屋の浸水被害、道路の通行不能
- 平成30年7月 西日本豪雨 当地区床上浸水1戸、床下浸水13戸

塚角地区（岡山県美咲町）

3. 過去の災害履歴



塚角地区（岡山県美咲町）

4. 【想定災害】

- ・洪水被害

吉井川と笹の木川の合流箇所における本流の逆流内水による浸水。

- ・ため池堤体の決壊

恋谷池、小原池、大平池

- ・台風や集中豪雨に伴う土砂災害

- ・地震災害

近年地震による災害は発生していないが、近くには那岐山断層帯、山崎断層帯があり、南海トラフ巨大地震が発生した場合は断層型地震が想定される。

近隣では、マグニチュード7.6 最大震度6強程度が想定されている。

塚角地区（岡山県美咲町）

5. 塚角地区における従来の取組状況

- ・平成28年 塚角自治会自主防災組織が制定されるも形式的で実際の活動がされていなかった。
- ・近年では、平成10年台風10号における大きな水害があり、吉井川沿いの区域においては、特に水害の関心が高まり防災に対する関心が高まってきた。
- ・防災士を中心に「防災の輪」を結成し子供から高齢者が安全安心の持続可能な地域づくりを目指して地域の有志と活動を進めている。
- ・地域コミュニティの活性化の為に小地域ケア会議、通いの場などの活動を展開している。

塚角地区（岡山県美咲町）

6. 塚角地区におけるモデル地区採択後の実施状況

地区防災計画（避難支援個別計画）作成に向けて

地区防災計画は地区の居住者等により自発的に行われる防災活動に関する計画であり地区居住者等の意向が強く反映されるボトムアップ型の計画であることから個別計画においても地区内の広い地域の人々の参加により策定を進めていく計画とした。防災会議の構成員は、地区内7常会の自治会役員、常会長および地区内関係団体のメンバーとした。

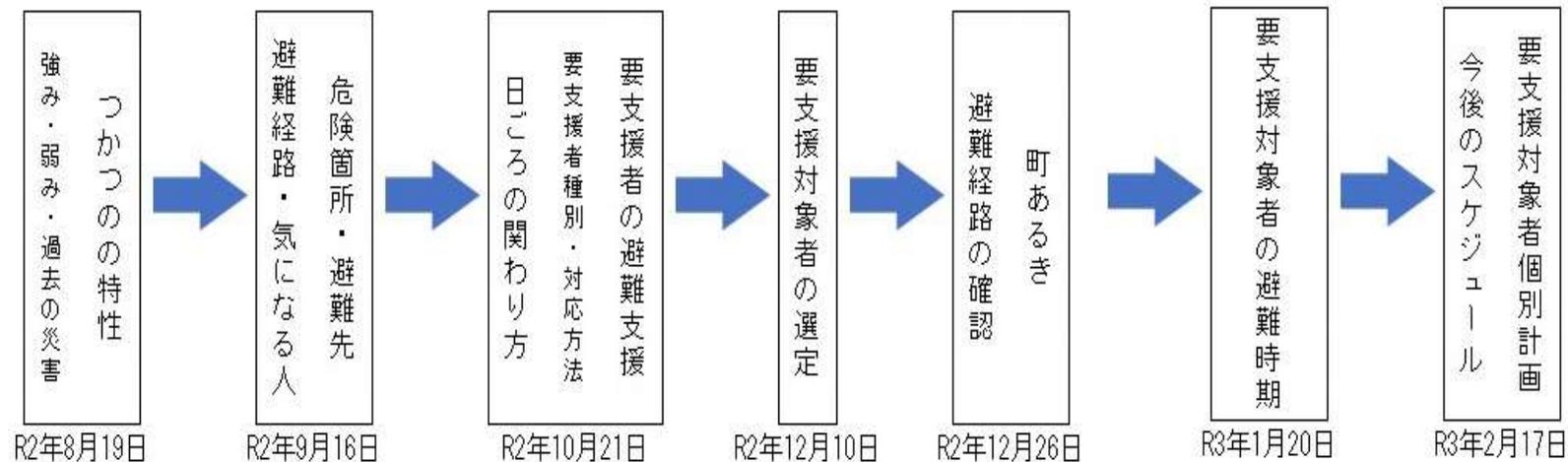


塚角地区（岡山県美咲町）

7. 塚角地区におけるモデル地区採択後の実施状況

個別計画活動の流れ

地区内7常会の防災会議の構成員を2班に分け、1班（大土原, 上1, 上1）、2班（中, 下, 小原, 笹の木）として、ワークショップ形式で作業を実施、作業の流れを以下に記す。



塚角地区（岡山県美咲町）

現地調査

8-1. 避難行動要支援者個別計画

ワークショップで水害を想定し確認した避難所、避難経路を基に、自治会役員と県の担当者、アドバイザーの方等の参加で防災町あるきを実施し避難ルート状況、気づいた点、課題等を確認した。



非表示

塚角地区（岡山県美咲町）

町あるきプロジェクト

8-2. 避難行動要支援者個別計画

非表示

避難経路
非表示

塚角地区（岡山県美咲町）

8-3. 避難行動要支援者個別計画

塚角スイッチ



情報の落とし込み
非表示

<p>●羽仁橋水位観測所水位 4.2 m レベル3相当 (避難準備) (高齢者等避難開始)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地区民に告知放送で避難開始を指示 (自主防災組織本部) 避難所開設 支援者招集→支援者行動開始 (避難所までの避難へ誘導・援助を行う。歩行困難者については、車両等により移送する。)
<p>●羽仁橋水位観測所水位 5.9 m レベル4相当 (避難指示) (避難勧告)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地区民に告知放送で避難開始を指示 避難所では入所者と未入所者の安否確認 自主防災組織による巡回 必要な場合自治会長から行政への報告・連携

塚角地区（岡山県美咲町）

9. まとめ

(1)モデル地区の指定を受けた理由

当地区は、過去から幾多の水害を経験し今日に至っている。近年では、平成10年に吉井川沿いの集落で大きな浸水被害を受け、災害に対する住民の関心が高まり、平成28年には自主防災組織が結成されたところであるが、防災意識は決して高くはなく、活動が少ないのが現状です。今回、県のモデル地区の情報を美咲町から得、当地区においても良い機会であり、地区の防災力の向上とともに、地域コミュニティの維持・活性化につながることを判断し、モデル地区指定をお受けした。

(2)モデル事業での成果

- ・要支援者個別計画については、二人のモデルでの計画にとどまったが、今後の個別計画を広めていくための礎ができた。
- ・この事業を通し、話し合いの中で地区の強み・弱みを皆で共有できた。
- ・今後における地区防災計画の作成に向けて足がかりができた。
- ・この事業を通し、「自助・共助」の重要性を学べた。
- ・地区民全員参加というわけではなかったが、地区内広範囲の代表者に参加していただき、防災への関心を広めることができた。
- ・防災面で考えられる問題点を取り上げ、皆でその対策を考えていくボトムアップ型の方向性ができてきた。

(3)今後に向けて

- ・自主防災組織規約を地区の状況等に即した内容に作り替え、避難場所や危険箇所、消火栓の位置などを記した防災マップを作成、配布し、避難訓練を実施していきたい。
- ・避難行動要支援者の同意を取り、近隣の支援者の特定をし、具体的な個別計画を作成していきたい。
- ・個別計画においては、要支援者一人ひとりの状況を細かく把握し、日頃の「声かけ」を基本とし、支援者が「いつ」「誰に」支援できるのかの観点での支援体制づくりをすすめていきたい。
- ・自主防災組織を具体化して、時間がかかるかもしれないが、地区としての地区防災計画を作成していきたい。



ご静聴ありがとうございました。